

「1円募金」による奨学金給付活動を助成
NPO法人 和む（吉本満廣理事長）が15年秋から始めた「1円募金」活動。1人につき年間24万円、4年間で96万円を支給するため、街頭での呼びかけや手作り募金箱・チラシの配布などで浄財を募っている。北九州市、中間市、京築地区、遠賀郡在住の九州工業大、北九州市立大など10大学の学生を対象に希望者を公募、公開のくじ引きで受給者を決める。現在対象者は3人で、毎年1人ずつ増やし10人への支給を目指しており、当事業団も助成した。

児童福祉施設への新入
学・卒業記念祝い品ブレ
ゼント 恒例の本主催
事業。歳末助け合い募金
「愛の義援金」を財源
に、児童養護施設や障害
児、肢体不自由児、盲ろう
児などの児童福祉施設

9月に台風15号が関東地方を縦断、暴風が吹き千葉県を中心に住宅被害が発生、大規模な停電も起きた。多くの人々が募金を寄せ、2020年1月、50万円を千葉県に寄託。東京、大阪と合わせた贈呈額は約1305万円になった。また、10月には台風19号が強い勢力で東日本を通過、広範囲で大雨となり、各地で河川の堤防が決壊、多数の住宅地が浸水、土砂災害も起き、100人近い犠牲者が出た。相次ぐ災害に被災者・被災地を支援しようと支援の募金が寄せられ、12月と3月に合計700万円を被災地に届けた。東京、大阪と合わせた贈呈額は7231万円になった。

助成・援助の事業件数としては最も多く、
今期は新規 1 件、他はすべてが継続事業で、
計 20 件。うち名義後援のみは 5 件だった。

今期は、前年度と同じ12団体に助成金を贈った。いずれも継続事業で、前年度並みの助成をした。

「声の点字毎日」発行▽ 第 42 回毎日サ
マースクール▽北九州精神障害者福祉会連
合会バスハイク▽第 40 回脳性マヒ児のた
めの母親研修キャンプ▽第 30 回北九州市
障害者水泳大会▽ 第 44 回「わたぼうし音
楽祭」▽第 17 回ごろりんハウス交流キャン
プ▽第 54 回九州地区聾学校体育・文化連
盟鹿児島大会▽第 88 回全国盲学校弁論大
会▽日本ふうせんバレーボール協会運営費
助成▽高次脳機能障害啓発研修会の助成▽
第 38 回北九州市障害者ボウリング大会▽
中間市手をつなぐ育成会年末もちつき大会
▽第 39 回「出発を励ます集い」▽北九州 O
P E N (国際車いすテニストーナメント 2
0 2 0 北九州)

◇名義後援事業◇ 第17回オンキョー
点字作文コンクール▽第56回点字毎日文化賞▽第37回北九州精神障害者家族会連
合会総会▽第57回北九州市障害者スポー
ツ大会▽第38回肢体不自由児者の美術展

毎日新聞西部社会事業団は5月、2020年度定時評議員会で任期満了となった理事、評議員、監事全員を選任し、19年度の事業報告や決算を承認。第2回臨時理事会で新理事長に若菜英晴氏（6月25日付で毎日新聞西部本社代表）を選んだ。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が拡大して非常事態宣言が発令されたため、通常の会議形式を回避。感染症予防のため、同月開催した第1回通常理事会も含めすべての「議事」を書類審議にした。一般法人法と当事業団定款に基づくもので、公益財団法人に移行して初めての措置。

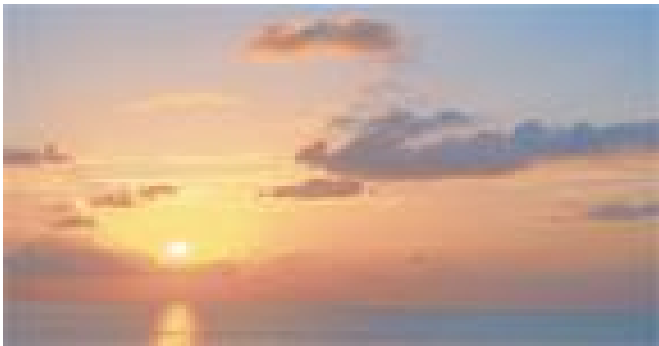
年度とほぼ同額の5800万円規模で、各種事業については、例年並みの内容で継続することを決めた。

ただ、通期でコロナ感染症の影響が予想され、予定通りの事業実施は大変厳しい状況になっている。

◇ 19年度の各事業の内容は以下の別項を参照。

19年度の各種募金の状況や実施した助成・援助などを盛り込んだ事業報告案や決算案も原案通り承認した。その後の臨時理事会で毎日新聞社の人事異動に伴い、岩松城理事市長の後任に若菜氏を選任、常務理事には引き続き瀬尾健悟理事を選んだ。

これらに先立ち、3月11日には19年度第2回通常理事会を通常形式で開催、20年度の予算案や事業計画を審議した。事業予算は、19



1996（平成8）年から展開している毎日新聞と毎日新聞社会事業団のキャンペーン「生きる——小児がんの子どもたちとともに」と連動した募金。東京、大阪、西部の3事業団に集まった募金は、小児がんや難病などと闘う子どもたちを支援する組織や医療機関など全国で30団体に1790万円を配分。第24次までの贈呈総額は3億6250万円となった。募金の配分団体は以下の通り。

がんの子どもを守る会（含むスマートムンストーン）▽難病のこども支援全国ネットワーク▽公益信託日本白血病研究基金▽ファミリーハウス▽スマイルオブキッズ▽メイク・ア・ウィッシュ オブ ジャパン▽そらぶちキッズキャンプ▽小児脳腫瘍の会▽アジア・チャイルドケア・リーグ▽パンダハウスを育てる会▽ゴールドリボン・ネットワーク▽あいち骨髄バンクを支援する会▽ぷくぷくばるーん▽京都大学医学部附属病院小児科ボランティアグループ「にこにこトマト」▽京都ファミリーハウス▽近畿小児血液・がん研究会▽しぶたね▽守口ぶどうのいえ▽日本クリニクラウン協会このものホスピスプロジェクト T S U R U M I こどもホスピス▽Japan Hair Donation&Charity▽チャイルド・ケモ・ハウス▽

【西部管内】にこスマ九州▽九大病院小児科親の会・すまいる▽八幡病院小児がん家族の会・あおぞら会▽宮崎ひまわりキャンプ▽九州がんセンター小児科親の会・大きな木▽久留米大病院小児科親の会・木曜会▽レモネードスタンドinふくおか実行員会▽たんぽぽハウス（熊本ファミリーハウス）



30団体1790万円

毎日新聞社会事業団が、毎日新聞紙面との連動で1979（昭和54）年から「飢餓・貧困・難民救済キャンペーン」として始めた海外難民救援事業は、2019年で41年目を迎えた。今回は9月に大阪本社の記者とカメラマンが、ナイジェリアで取材、11月に「終わらぬ恐怖——ナイジェリア報告」のタイトルで連載した。

連載では、イスラム過激派の武装勢力「ボコ・ハラム」の支配下から逃れた少女や元少年兵たちの現状や、貧困にあえぐ子どもたちを紹介。過酷な状況の中で懸命に生きている子どもたちの姿を知った読者から浄財が寄せられた。西部社会事業団は東京、大阪両事業団とともに、国際機関の日本ユニセフ協会や国連UNHCR協会、「ペシャワール会」「ロシナンテス」をはじめとするNGOなど22団体に総額970万円を届けた。キャンペーン当初からの救援金の総額は16億4248万8344円になった。

海外救援金の配分先は以下の通り。

国連UNHCR協会▽国連世界食糧計画WFP協会▽日本ユニセフ協会▽国境なき医師団日本▽日本国際ボランティアセンター（JVC）▽難民を助ける会（AAR Japan）▽シェア＝国際保健協力市民の会▽AMDA▽シャンティ国際ボランティア会▽ワールド・ビジョン・ジャパン▽難民支援協会▽緑のサヘル▽国連開発計画（UNDP）▽国連人道問題調整事務所（OCHA）▽JIM-NET（日本イラク医療支援ネットワーク）▽高遠菜穂子（ピース・セル・プロジェクト）▽CODE海外災害市民センター▽地雷廃絶日本キャンペーン▽ユナイテッド・アース▽ラリグラス▽ペシワール会▽ロシナンテス



計22団体970万円